



< 6月23日から1週間は男女共同参画週間です >

2020年 30%って何の数値目標？

指導的地位を占める女性を30%に！

「2020年30%」とは社会のあらゆる分野において2020年までに**指導的地位（議員・役員・管理職・大学教授など）**に女性が占める割合を30%にするという政府の目標です。

日本では就業している女性の割合は4割を超えていますが、そのうち管理職についている女性は約1割。中でも企業の役員の女性比率は1.23%と国際的にもかなり低いレベルです。日本の女性の教育水準の高さから見ると「日本は女性の能力を活用していない」ということで国連からも再三、是正勧告を受けています。

積極的な改善策～ポジティブアクション～を！

政府は企業や団体に対して、「役員会の女性比率が高い企業ほど、高い業績を上げている」という国際的な調査結果を示し、**男女格差を改善するために積極的にチャンスを与える（ポジティブ・アクション）**を推奨しています。具体的には、①組織のトップの意識改革 ②女性登用の数値目標を設定 ③メンター制度（女性の先輩が助言者としてサポートする）導入④短時間勤務など柔軟な働き方の確保などが挙げられています。皆さんの職場では、どんな取り組みが行われていますか？

男女平等参画に関する市民意識アンケートの結果から・・・

町田市では、5年ごとに「男女平等参画に関するアンケート調査」を実施しています。2010年7月、無作為で選ばれた市内在住の成人男女各1500人に郵送され、1130人(37.7%)から回答がありました。回答者の年代は男女とも60歳代が一番多く(各25%以上)、39歳以下は約2割、40歳以上が8割近くという年齢構成でした。調査の項目は以下のとおりです。

- ① 家庭内の役割分担 ② 家庭と社会の両立 ③ 子育てと教育 ④ 介護 ⑤ 就労と職場
⑥ 人権(DVなど) ⑦ 女性の健康 ⑧ 地域・社会活動 ⑨ 男女平等参画社会

女の子と男の子 どう育てる？

子育ての項目では6割が「女の子も男の子も同じように育てる」と答えています。一方、「希望する子どもの将来像」について聞いたところ、女の子には「思いやりのある人」「素直な人」「親を大切に作る人」、男の子には「責任を果たす人」「思いやりのある人」「社会性のある人」の順となり、違いが現れました。

仕事と家庭の両立（ワークライフバランス）に必要なのは 職場環境の改善

全年代の男性と20歳代女性の4割近くが「仕事と家庭をどちらも優先したい」と希望していますが、現実には4割以上が「仕事を優先している」と回答。両立支援に必要なことをたずねると、「企業が両立できる職場環境を整える」がトップでした。

職場での男女差を強く感じているのは男性たち

女性の5割、男性の7割が何らかの仕事についていますが、女性はその半数がパートなど、男性は8割以上が正社員でした。職場での男女差については、「職務内容・配置に男女差がある」「昇進・昇格に男女差がある」「募集・採用に男女差がある」の順で、いずれも男性の数値が高く、男性のほうが男女差を強く感じていることがわかりました。また、職場での男女の地位の平等感では「男性優遇」の割合が高くなっています。

男性のほうが 女性が働き続けることに肯定的

女性は「子どもができたなら辞め、子どもに手がかからなくなったら働く」が4割以上で最も多いのに対して、男性は「女性は結婚出産にかかわらず職業をもつほうがよい」が一番多い(35.5%)という結果でした。

(裏面へつづく)

(表面からつづく)

女性が働き続けるのに必要なことは 保育施設・育児休業・職場の理解 として男性の家事育児参加

「女性が働き続けるのに困難がある」と感じている人は男女ともに7割以上。女性が仕事を続けるために必要なことは「保育施設・内容の充実」「育児介護休業制度の普及」「職場の条件・制度を整え妨げになる慣行をなくす」が男女ともに多く、女性は半数が「男性の家事育児を行う意識や能力を高める」と答えています。

男女平等推進センターに求めるものは 男性の家事参加促進・女性の就労・相談事業

同センターで重点的に行うべき事業は、女性は、20歳代では「男性の家事参加促進」が1位で、30歳代～50歳代では「女性の就労支援」「男性の家事参加促進」の順となっています。一方、男性は20歳代は「相談事業」が1位で、30～50歳代は「女性の就労支援」「相談事業」となっており、「男性の家事参加促進」は3位以下ですが、70歳代になると男性自身が「男性の家事参加促進」を一番にあげています。

おわりに

「男女平等推進センターを知らなかった」と答えた人が8割を越えていました。自由記述には「このアンケートのおかげで市の取り組みを知ることができた」「市が積極的に男女平等を推進していることをもっとPRしてほしい」「女性の人権、地位向上に努力してほしい」などの意見が多数ありました。これらを貴重な市民の声としてセンター事業の充実と発展のために運営委員会としてもさらに協力していきたいと思えます。

シネマでトーク

大きなスクリーンで名画を観て感想を話し合しましょう。 **無料**

*** 6月14日(火)14:00～**
「クリーン」

04年(仏・英・カナダ)111分
歌手としての成功を夢見るエミリーが、引き離された息子を取り戻そうと、昔、住んでいたパリへ向かう。ヒロイン、マギー・チャンは、カンヌ映画祭で主演女優賞を受賞。

～まちだくらしフェア協賛企画～

*** 7月2日(土)13:30～**
**「クララ・シューマン/
愛の協奏曲」**

08年(独・仏・ハンガリー)109分
クララの夫、ロベルト・シューマンと無名の作曲家ヨハネス・ブラームスは、奇妙な同居生活する。19世紀ドイツの女流音楽家の生き様を描く。

*** 8月9日(火)14:00～**
「この自由な世界で」

07年(英・伊・独・スペイン)110分
シングルマザーのジェイミーは息子と暮らせる日を夢見て外国人労働者紹介所を始めるが、不法労働者のほうが儲かることを知り一線を越え事件が…。移民をテーマにした問題作。

**上映場所：市民フォーラム
活動室(3F)**

「無頼化する女たち」水無田氣流 洋泉社
自らを「負け犬」と称した独身キャリア女性、勝間和代(カツマー)ブームが打破した女性の金儲けタブルと出世タブル、「おひとりさまの老後」で一般化した高齢女性のニヒリズム：これらはニッポン女子の無頼化現象。カツマーのようなサバイバルエリートと、その裏側にある婚活などの保守化や、ヤンキー女子の育児と非正規労働という二極化。そんな女子カルチャーの分析を通じ、いつの時代も無頼化せざるを得ない女性にエールを送る1冊です。

「なんちゃって育児休業でパパ修行」成澤廣修 主婦の友社
文京区の現職市長である著者が、日本で初めて首長として2週間の育児休業を取得した体験記。育児中、子どもの成長を実感し、子どもとの絆、妻との信頼関係などがえのないものを得、道路の段差や駅のエレベーターの位置、子育て広場のあり方、育児パパを孤立させないなど、まちづくりや子育て政策への気づきも多かったと言います。さらに特別職の育児条例制定、父親の育児取得率向上への制度改善の提案などもしています。

新刊書紹介 図書の貸し出しやDVD・ビデオの視聴ができます！
『女のしあわせがなくなる日』ももせいづみ 主婦の友社
いまや4人に1人は一生独身で、結婚しても3組に1組は離婚する時代に、いまだに結婚出産で7割の女性が仕事を辞め、結婚＝女の幸せと漠然と信じノープランで生きるの、あまりにハイリスク。結婚という形式よりも、誰かと暮らしをシェアする力、育てる力、住まう力を持つために、まずは稼ぎ続けること、仕事も家庭も完璧を求め過ぎず、人の手を借りながら、そこそこに。そんな新しいスタンダードを支える社会の仕組みが必要と著者は言います。

夏休み親子体験学習

「子どもが自分自身を守る方法」 ※CAPは子どもへの暴力防止プログラムのことです。
CAPプログラムを体験しよう!

対象：小学1年生～3年生の子どもと保護者、大人向け講座希望者

日時：7月22日(金)10:00～12:00

会場：町田市民フォーラム 子ども:4F第2学習室、大人:3F視聴覚室

定員：子ども40名、大人48名

申し込み方法は、広報まちだ7月1日号、
町田市ホームページでご案内します。